

概説書	中川裕『アイヌの物語世界』平凡社 1997年960円（税込）
アイヌ語原文の物語など	知里幸恵（編訳）『アイヌ神謡集』岩波書店 1978年400円（税別） 萱野茂『カムイユカラと昔話』小学館 1988年3,796円（税別） 中本ムツ子（語り）片山龍峯（編・解説）『アイヌの知恵ウバクマ1』片山言語文化研究所（発売：新日本教育図書）1999年2,500円（税別）
童話・絵本	川上まつ子（語り）・中村齋（文）・北市哲男（絵）『ボロシルンカムイになった少年』（財）アイヌ民族博物館 1986年 萱野茂（文）・斎藤博之（絵）『アイヌの民話絵本』小峰書店 1998-1999年1,400円（税別） 松谷みよ子（文）・西山三郎（絵）『ちいさなおキルミ 日本のみんな絵本』ほるぷ出版 1985年本体1,450円（税別） 神沢利子（文）・赤羽末吉（絵）『けちんぼおかみ』偕成社 1987年
ビデオ・CD	中本ムツ子（うた）片山龍峯（復元）『「アイヌ神謡集」をうたう』草風館 2003年3,000円（税別） 『アイヌ民族博物館 伝承記録3・昔話 上田トシのウエベケ』（財）アイヌ民族博物館 1997年1,500円（税込） 萱野茂『萱野茂のアイヌ神謡集成』全10巻ビクター・エンタテインメント 1998年189,000円（税込） 萱野茂・平取アイヌ文化保存会『アイヌのうた』ビクター・エンタテインメント 2000年1,995円（税込） 『アイヌ文化を学ぶ』（財）アイヌ無形文化伝承保存会 1995年4,500円

Data



●お問い合わせ先
平取町立二風谷アイヌ文化博物館
Tel.01457-2-2892
白老町教育委員会社会教育課
Tel.0144-85-2020

語りながら、動植物や自然界の出来事に対する人間の心構えなどを教えてくれる。多くの場合、語り手であるカムイがだれであるかは、物語の最後に「・・・と〇〇が語りました」といった形で初めて明示される。物語ごとにおおよそ決まったメロディーに「アテヤテヤテンナ テンナ」「フムフム カト」などの言葉が、繰り返し繰り返し挿入され、独特のリズムをつくり出している。

「散文説話」は、主人公も話の内容もバラエティーに富んでいる。よい心がけを持つ主人公は、様々な苦勞や危機を経ても最後には幸せな結末を迎えるというような社会で生きていく上での心がけを伝えるものや、その土地での出来事や先

祖が体験したことなど大切に伝えていくべき物語などもある。日常会話に近いような語り口調や、それよりもやや単調に聞こえる口調、逆にやや大きく抑揚をつけたりする口調で語られる。

「アイヌ神謡集」の著者・知里幸恵（1903年～1922年）。病に冒され19歳でその生涯を閉じるまで記述を続けた。2003（平成15）年、知里幸恵生誕100周年を機に「アイヌ神謡集」が注目され、さまざまな催しが開催されるなど、アイヌ口承文芸がより一層、身近になった。「銀のしずく降る降るまわりに……」の美しい一節が印象的だ。

アイヌ文化を保存し伝える団体や各地域では、口承文芸をはじめアイヌ文化を広く紹介し理解を深めるため、さまざまな取り組みが進められている。口承文芸を学ぶための文献やCDも整い始め（上の表参照）、また、図書館や博物館で聴くことができるようになってきた。

「環境づくりとして重要だ。そのための機会を多様に設けていこうというのが、担い手団体としての平取町の考え方だ。

白老町では、アイヌ文化の教育・文化施設、財団法人アイヌ民族博物館や、国の重要無形民俗文化財に指定されているイオマンテリムセ等、数々のアイヌ古式舞踏を伝える白老民族芸能保存会、そして北海道ウタリ協会白老支部とともにアイヌ文化の保存・伝承・普及・振興に取り組んでいる。

特にアイヌ民族自らが運営するアイヌ民族博物館は、アイヌ語や古式舞踏、アイヌ民族独特の楽器ムツクリ、さらにはさまざまな儀式や食文化を学ぶ体験学習が復元されたチセ内で開催されるなど、アイヌ文化に直にふれられ、かつ体験できる伝承の里となっている。中でもアイヌ口承文芸を学ぶ事業については、白老地方に伝わるアイヌ語やウエベケレなどの概要等、専門的な説明を学芸員や研究者から受けながら、伝承者の語るカムイユカラを聞き、物語が伝えたい事柄や単語の意味などを学ぶことができる定期的な催しであるなど、伝承者の育成にも力が注がれている。

近年では、これらの事業で学んできた方々が指導者となって、独自にアイヌ文化の振興、次世代に向けた取り組みを進めている。